

中国語

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和5年度の共通テスト「中国語」の受験者は本試験及び追・再試験合計741人で昨年度の605人に比べて136人増加した。「外国語」受験者の0.16%であり昨年度の0.13%から微増している。今後も大学側がより一層中国語を入試に活用することが求められている。引き続き高等学校で中国語を学んだ高校生が進学に活用できる客観的な水準設定が望まれる。

令和5年度共通テストを以下の3点をよりどころに、また、14ページに記載の8つの観点によって、総合的に検討・評価に当たることにする。

- (1) 共通テストは「高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている」試験であるという観点に立ち、学習指導要領「外国語」の目標を重視する。

その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し、問題作成を行う。

- (2) 教育現場からの「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題」となっているかについて、従来からの「基本的要望」が尊重されているかを重視する。

- ① 細かすぎる難解な語法を問うことはせず、基本的な文法力を問うこと。
- ② 長文読解は、高校生になじみやすいテーマを選び、内容が抽象的すぎ、論理的に説明が難しいような出題は避けること。
- ③ リスニング試験が実施されないことを補うために、ピンインを重視して出題すること。

- (3) 令和4年度の問題作成部会の見解を参考とすること。

2 内容・範囲

第1問 A～Cは昨年度と同じく発音の基礎を確認する問題であり、Dはピンインで示された会話文の流れを把握し、抜けている会話文を選択する問題である。リスニング問題を補う問題として、ピンイン学習とともに実際的なコミュニケーションも重視する傾向がある。

| 第1問 | A | B | C | D |
|---------------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 計9問 (計36点) | 声母 | 韻母 | 声調 | ピンインによる会話 |
| | 8点(4点×2問) | 8点(4点×2問) | 8点(4点×2問) | 12点(4点×3問) |

A 昨年度同様、見出し語の下線部の声母（子音）と同じものが選択肢の中にいくつあるかを選ぶ形式であった。提示された語句はみな重要語であり、声母を問う問題として適切である。

問1 b・pの有気音と無気音の区別を問う問題。見出し語も選択肢も重要語であり、適切である。

問2 無気音の“j”と有気音の“q”との判別だが、“i”との組合せで間違いやすい他の声母(z, zhなど)を入れても良かったと思われる。

B 韻母（母音）に関する出題である。見出し語も選択肢も重要語であり、適切である。

問1 “eng”と“ong”の判別である。適切な設問である。

問2 “uo”と“uai”の判別であるが、“火柴”は、現在の高校生を含む若年層にとっては

身近なものではなく、一考を要する。

C 二音節語の声調を問う問題。見出し語と声調の組合せが同じものの数を問う形式である。

問1・問2ともに、見出し語も選択肢も重要語であり、適切である。

D 文は会話文と選択肢共にピンインで示してあり、各問の会話文、選択肢共に難解な語句はなく、ピンイン学習を重視する出題となっており評価できる。

問1 ピンインから会話の内容が読み取れれば正答を選べる。選択肢に工夫が欲しい。

問2 この問題自体を見ると、正答の“我把重点给你记下来吧。”を選択できるのだが、“不要睡觉啊！”と返すのは少し不自然さを感じさせ、出題のねらい以外の点で時間を使ってしまった懸念がある。

問3 “真不简单”“有了条件~就……”の理解を問う問題であり、適切である。

第2問 昨年度同様の出題形式と配点である。

A 適当なものを選ぶ空欄補充の問題。類義語の知識が要求される。選択肢は重要語である。

問1は、“~发音和语法的错误”を「直す」に合う動詞を選択する問題で、目的語に合った動詞の用法の理解を確認する良問である。

問2は、“玩具”を「片付ける」に合う動詞を選択する問題で、良問である。

問3は、“一定会”を理解し“通知”を修飾する副詞の意味用法の理解を問う適問である。

B 類義語を問う問題。「適当でないもの」を選ぶという設問形式は難度が高くなる。選択肢はいずれも重要語である。

問1は、主語“教室里的气氛”に対応する述語を選ぶ問題で、“高兴”は人が主語であること
の理解を確認する点で適切である。

問2は、“发言”を修飾する副詞を選ぶ基礎的な語法の理解を確認する良問である。

問3は、“管理”を修飾する単語の意味用法の理解と“节约”が動詞であることを見分ける問題で、良問である。

C 短文中の空欄に入れる適語を8つの選択肢から2つ選ぶもの。16は「多くなってきた」という意味の単語の理解、17は「買いすぎ」という意味で“消費~”に繋がる語句を選ぶもので、“超过”は目的語をとることの理解を見る適切な問題である。

第3問 和文中訳、中文和訳を通して、中国語の表現力、理解力を測る問題である。設問形式、設問数は昨年度と同じである。単語の難易度は高くなく学習してきた文法事項や語法を活用、応用し、熟考することにより正答できる設問になっている。

A 和文中訳問題で、与えられた8つの単語から4つ選び、並び替えるもので、選択肢の語句も重要語の範囲内であり、文法や語句の用法の理解を確認する問題として適切である。

問1 「~にメールを送る」の表現や“再”の用法など基本的な語法を見る、適切な出題である。

問2 “把”構文や“好不容易”の語彙を問う適切な出題である。

問3 “好像”や疑問詞の不定用法による表現を問う基本事項を押さえた良問と言える。

B 示された和文に相当するピンインで記された中国語を選ぶ問題で、素直な出題である。

問1は可能補語と“你忙你的吧”の表現を見る設問で適切である。

問2は反語の用法だけでなく、選択肢の文の内容を正確に見る必要があり、適切かつ良問である。

C ピンインで示された中国語文に相当する日本語を選ぶ出題である。

問1は、“多亏了你”や“了”の用法理解を試す、基本的な学習事項を押さえた適切な設問である。

問2 “不～才……”の形が容易な語を用いた文で作られており、中国語の表現を問う良問である。

第4問 昨年度と同様の出題形式で「文章・表・案内文」、Bの「地図・スライド・意見書」のそれぞれ3つの言語材料から総合的に判断する融合問題である。

A 山田さん一家がバーベキューに行く日程や天気そしてバーベキュー場の状況を書いた文章に基づき、内容理解の設問に答える問題。

問1 文章と表から文章理解を問う素直な出題であり、1題目としては適切である。

問2 バーベキュー場の案内文と表から読み取り、できない事柄を選ぶ問いで、しっかり読み取る必要がある点で適切である。

問3 弟の書いた作文から適当なものを選ぶもので、内容理解を見る適問である。

B S市自転車道に関する地図・評価文・意見書文を読み、内容理解と文法事項を含む空欄補充等に答える問題である。

問1 地図と評価文が効果的に使われていて良問である。

問2 自転車道の情報について書かれた文章からスライドに適切な文を選ぶもので、内容読み取りの理解を見る適問である。ただ、注釈に“成本”：コストも入れる方が適切である。

問3 38は会話文のつながりの理解を問う適問である。39は数量と人の感情が主語の場合の主述のつながりを問う良問である。

第5問 夫の写真を撮る趣味から自分の文章を書くことに結び付け、その意味を論じる文章の読解。設問数、配点共に昨年同様。

問1 空欄に適語を入れる問題。先を読んでいけば適切な語句を選択できる。適切な設問である。

問2 “只不过是”の表現や修飾構造を理解できているかを見る良問。ピンインの学習を重視している点も評価できる。

問3 “不能再～”の表現はもちろん、文章の流れを把握しているか問う良問である。

問4 文章理解と共に副詞の呼応表現を選択肢に入れ、文の意味を正確に読み取ることを試す良問である。

問5 空欄に適語を入れる問題。文章の展開を理解しているかを見る適切な設問である。

問6 文の表す内容を問う設問で、選択肢も含め語句は平易であるが、文章の中でどういう意味で書かれているかを問う良問である。

問7 難解な語句はないが、前後の文章の意味も含め流れを正しく把握しているかを見る適切な問題である。

問8 文章の主題に関わる設問である。文章全体を読解しているかを見る適切な設問であるが、選択肢に工夫がやや必要と思われる。

問9 文中における語句の係り受けを正確に理解しているか、また方向補語の“～下来”の適切な理解を測る適切な設問である。

問10 文章全体を的確に読めていれば正答できる良問である。文章の内容理解を問う適切な設問である。

3 分量・程度

(1) 分量

今年度の第5問の長文は33字×31行約875字で、文章量については昨年度とほぼ同等の量であるが、やや抽象的で読解には時間を要したと思われる。第4問も文章と資料・会話を組み合わせ

た問題であり、読む量はかなり多い。これは共通テストに移行した以降の全体的な傾向であり、長文読解については、多くの情報を含む文章を理解し考察する能力を試す設問が求められる。80分の試験時間を考えると、現時点での文章量・難度を維持していただきたい。

(2) 程度

内容的には今年度の設問は、高校生にとって難解なレベルのものは多くないが、第4問・第5問の文章量を考えるとこれ以上難しい内容は時間的に厳しいと言わざるを得ない。

4 表現・形式

全体的出題形式を見ると以下の通りである。

| 内容 | 発音・ピンイン | 語句 | 表現力 | 複合的な資料の読み取り | 長文読解 |
|-----|---------|-----|-----|-------------|------|
| 設問 | 第1問 | 第2問 | 第3問 | 第4問 | 第5問 |
| 設問数 | 9 | 7 | 7 | 8 | 10 |
| 配点 | 36点 | 32点 | 28点 | 52点 | 52点 |

マーク数も昨年度と同等である。

5 要 約

令和5年度共通テストは、設問形式や内容、単語の選択において高校生レベルの出題が多く、思考力、総合的な判断力を問いながらも高等学校から中国語を学び始めた受験者を意識した出題者の工夫が感じられた。

| | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------------|
| 受験者数 | 558 | 574 | 665 | 667 | 625 | 599 | 735 (+136) |
| 平均点 | 164.91 | 154.90 | 150.89 | 167.41 | 160.34 | 164.79 | 162.76 (-2.03) |

受験者数は大幅に増加し喜ばしい傾向である。外国語における中国語科目の社会的なニーズは引き続き大きいことを示していると考えられる。内容的にも「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づいている高等学校3年間で学ぶ中国語のレベルに近付いてきたと考えられる。今後も共通テストの科目として有効に活用されることを希望する。全体としては概ね適切な問題だったが、今後の出題として以下の点にご考慮いただきたい。

- ・今年度高得点だった設問を次年度に難易度を極端に上げないようにしていただきたい。
- ・第1問の単語の知識を問う問題では、日頃学んでいる見慣れた単語を選んでいただきたい。
- ・高等学校から中国語学習を始めた生徒たちが「是非受験したい」と思う出題をお願いしたい。
- ・今年度の報告書に則して、高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題を今後ともお願いしたい。